

令和元年度岡山県8020推進事業評価会議議事概要

日時：令和2年2月6日（木）14：30～16：10

場所：ピュアリティまきび ルビー

出席者：委員10名、オブザーバー3名 計13名（2名欠席）

傍聴者：なし

- 1 開会
- 2 会長、副会長の選出
- 3 報告
第2次岡山県歯科保健推進計画の推進状況について
- 4 協議事項
 - (1) 令和元年度岡山県口腔衛生対策事業について
 - (2) 令和2年度岡山県口腔衛生対策事業(案)について
 - (3) 各団体の取組紹介

○発言要旨

<報告>（資料1）

第2次岡山県歯科保健推進計画の推進状況について

【事務局からの報告】

【質疑応答】

●委員

①成人期・高齢期、特に40歳頃までの成人期の歯科保健に関する施策について、ビジョン、計画等があればお聞かせいただきたい。

→（事務局）

・成人期・高齢期の歯科保健に関する施策は確かに課題である。どのような事業ができるか検討が必要だと考えている。

②すでに計画の目標を達成している指標について、多数の市町村が目標を達成できていない指標もあり、県内全体の底上げを図ることからも現行のままでよい。

●会長

①後期高齢者の機能訓練を実施する市町村が今後増えていくと思う。そのデータを共有して評価の対象にすること、職場における健康診断のデータも健保組合等と連携して活用すること等ができるとうい。

②歯科に限らず医療においては様々な格差がある。県内押し並べて目標達成を目指すということからも計画の指標は現行のままでよい。

●副会長

・3歳児のフッ化物塗布経験率は年1回でも経験ありになるが、それではフッ化物塗布の効果はない。ある程度回数が必要ということ市町村において健診の時に情報提供してもらえるとよい。

●委員

- ・むし歯治療率について、市町村によって治療完了報告の回収に差があり、治療が完了したかではなく、回収率によりむし歯治療率の数値に差が出るという状況もある。また、市町村が各学校のデータを持っていないという状況もあり、市町村ごとのデータを提供いただけるとよい。

<協議事項>

- (1) 令和元年度岡山県口腔衛生対策事業について
- (2) 令和2年度岡山県口腔衛生対策事業（案）について

【事務局からの説明】

- ・県庁内に医療的ケア児に関する部局横断的な協議会が立ち上がり、その中に歯科保健の視点も入り県歯科医師会もご参加いただくことになっている。今後医療的ケア児への取組も進んでくると思われるので、情報提供させていただく。

【質疑応答】

●オブザーバー

- ・リーフレット（健康なお口で伸ばそう健康寿命）は県へ連絡すればいただけるか。

→（事務局）

- ・元気な高齢者が集まる場等で配っていただけるとよいと思うので、県へご連絡いただければ送付させていただきます。

●会長

- ・保育園におけるフッ化物応用の状況についてお伺いしたい。

●委員

- ・園歯科医師に来ていただく時は大勢で一斉にフッ素塗布できるが、園歯科医師がいないときは塗布がほとんどできない。保護者はフッ素塗布を希望している。

●会長

- ・フッ素塗布・フッ化物洗口というフッ素の利用について保護者の了承は得られており、園歯科医師の指導のもと行えば問題ないということか。

●委員

そうである。

●会長

- ・がんの医科歯科連携について病院からの要望もある。県のスタンスを伺いたい。

→（事務局）

- ・がん医療については医療推進課が中心で実施しており、がん医療についての拠点病院等との連携会議を持っている。その部会へ県歯科医師会にも入っていただき、がん連携の協議が進められていくと認識している。

●会長

- ・がん連携は今後ますます必要性が増し、歯科部門もやっていかなければならないことだと思っている。

●委員

- ・フッ化物洗口をモデル事業として実施しているが、取り組んでいる所の効果や、取り組んでいる所と取り組んでいない所の違いといった評価等はどうか。

●委員

- ・岡山県はフッ化物洗口がほとんど進んでいないため、取り組んでいる所と取り組んでいない所の比較ができるようなデータはない。フッ素のむし歯予防の有効性は証明されているが、それが知られていない。普及啓発になればと思い、今回リーフレットを作成している。

●委員

- ・フッ化物は効果があることは世界的にもエビデンスがあり、モデル事業として実施した所と実施していない所との違いをデータで示していただければ、もっと広がっていくのではないかと思う。データ集計についてよろしくお願ひしたい。

●会長

- ①フッ化物洗口を歯科医師等の専門家から普及させていくのは難しいと感じている。県民から、フッ化物を応用して子どもたちのむし歯を減らそうという動きをしていただくのが普及させる一番の方法だ。フッ化物洗口をすれば必ずむし歯罹患率は下がる。愛育委員の皆様等も含めて、学校や保護者が集まる場等で、また、PTAの立場とか色々な立場でお話いただきたい。
- ②フッ化物応用の有効性について岡山県は全くPRできていない。九州では確実に効果を上げている。

●委員

- ・保護者の中にはフッ素を塗ると歯が黒くなるという概念を持っている人もいる。もっとフッ素の安全性を宣伝していくべきだと思う。

●委員

- ・実施に抵抗がある自治体も、積極的に実施して効果が出ている自治体の状況を見れば前向きになると思う。できれば、学校・園単位ではなく市町村単位で行っていただきたい。

●オブザーバー

- ・保育園から高校まで学校へ入って食育をさせていただいているが、食べること・噛むこと・むし歯には深い関係がある。理事会等でフッ化物洗口について説明をいただければ、地域に持ち帰って広めていきたい。

(3) 各団体の取組紹介 (資料2)

【各団体からの説明】

閉会